

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人 隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
所在地	大阪府大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	平成 29年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 29年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2770801633-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 4月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を増やすため、近隣の長居公園への散歩へ積極的に出掛けています。また、地域密着型施設として、地域の集まりにも参加したり、認知症カフェを定期的に開催し、ご利用者様にも参加してもらっています。また、通所介護事業併設型のグループホームの特色を生かし、音楽ボランティア等に参加し、楽しく生活が送れるように支援しています。今年からメイクをサービスとして導入。「いつまでも美しく」をモットーに、希望に添って身だしなみ等職員が支援しています。外部講師の先生からも、レクチャーを受け男性職員もメイクが出来る体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お役立ちの心」を創業の心とし、地域に貢献している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。大規模公園に隣接近くに病院や飲食店もあるなど環境に恵まれています。ホームは2・3階にあり、1階には定員40人のデイサービスセンターを併設し利用者間の交流を進めています。地域のふれあい喫茶やイベント等にも参加し、ボランティアの支援を受けて音楽等各種クラブ活動にも取り組んでいます。外部講師「〇〇先生のおめかしプラン」に学び、「いつまでも美しく」をモットーにメイクをサービスとして導入しています。「夢を持って歩こう」では、万歩計をつけて目標に達したら、利用者がめざした「夢の場所」に出かける支援をしています。最近では繁華街で「てんぷら」を味わう、「日帰り旅行」に出かける等の夢が実現しています。食を楽しむ支援では法人より派遣された料理人が毎週1回本格料理を提供し、環境委員会では快適に過ごせる環境づくりを進めています。職員間のチームワークが良く、法人のバックアップを受けて質の高いサービス提供をめざしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様、地域、職員、法人の5つの笑顔理念に掲げ、毎朝の朝礼にて唱和し、理念の浸透に努めています。また、実践に繋げるよう、クレドを作成し、職員に配布して理念や運営方針等の意識付けをおこなっています。</p>	<p>「ご利用者様の笑顔 ご家族様の笑顔 地域の笑顔 職員の笑顔 法人の笑顔」を理念とし、「お役立ちの心」を持って、地域に開かれた施設を目指しています。職員は理念をホーム内に掲示し、毎朝朝礼で唱和し共有しています。また、理念、運営方針、行動指針をカードに記載して携帯し実践につなげています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の集い「鷹合虹の会」や「ふれあい喫茶」等の催し物に、ご利用者様と共に積極的に参加しています。	地域自治会に加入し、地域と連携しながらホーム運営を進めています。利用者は地域の会館で開かれる「ふれあい喫茶」や地域の集い、夏祭りやイベント等にも出かけて交流を楽しんでいます。同法人運営のデイサービスセンターとの交流では、知人と話をしたり、近隣の友人に入居前に住んでいた家の様子を教えてもらったり、個人的な交流も楽しんでいます。職員は小地域ケア会議に参加して、地域住民、消防、警察、医療機関等の専門職と交流し、介護職の視点から提案や助言を行うなど地域貢献にも努めています。新たに認知症カフェとして「ゆめカフェすまいる」を開設し、地域に呼びかけて交流の場としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ「ゆめカフェすまいる」を定期的に開催。相談支援や予防体操などを実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括の方や町会長様・ご家族様から出た意見を、現場に落とし込めるよう、議事録を作成し、各ユニットに配布しています。事故件数の減数等、安全・安心な施設づくりが行えています。</p>	<p>運営推進会議は年6回開催しています。平成28年度から市の試験的導入による会議開催方式を取り入れ、年6回のうち3回は従来どおりの会議を開催しています。その他の3回は会議構成員に書面を送り、発言や助言を受ける方法で会議開催に変えています。従来の会議では、ホームから利用者の状況報告、職員異動、活動報告等を行い、出席者からは活発な意見と助言が出されています。新たに法人が行う認知症カフェの名称には認知症の文言を除いて「ゆめカフェすまいる」とする提案や事故防止についての助言等が出され、速やかに運営に活かしています。会議録は各ユニット玄関に置いて、家族や職員等で内容を共有しています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に地域包括の職員に参加協力を頂いています。また、地域ケア会議にも積極的に参加させられています。住みやすい地域作りに協力しています。</p>	<p>管理者は、何かあれば市の担当課に連絡して相談や情報交換をしています。計画作成担当者は毎月市の担当課に出向き、報告・相談をしています。市が推進する小地域ケア会議等に積極的に参加し、協力関係を築いています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者の権利擁護又は、身体拘束・虐待に関する研修を施設内にて開催し、また、外部研修に管理者や職員が参加しています。</p>	<p>身体拘束ゼロ宣言を行い、今までも現在も拘束はありません。1階玄関に拘束11項目を記載した身体拘束ゼロ宣言のリーフレットを掲示しています。内部・外部研修を実施し、参加できなかった職員にはCDを活用した伝達研修を行い、全職員で共有しています。また、入職時の研修では言葉使いやスピーチロック(言葉による拘束)について説明し理解を深めています。家族から転落防止として、ベッド柵使用の要望があり、家族と職員で検討し拘束に至らなかった例があります。利用者の居住フロアは建物2・3階にあり、簡単な操作をすればエレベーターに乗ることができます。1階玄関は中からは自由に出ることができますが、外からは防犯に配慮して暗証番号が必要です。職員は利用者の行動から外出希望を汲み取り、付き添うなどの支援をしています。</p>	<p>管理者は鍵をかけないケアの重要性について十分に認識し、利用者の安全を守りながら閉塞感の無い生活支援ができるよう模索しています。エレベーターの操作方法について、利用者の目につくところに分かりやすく掲示することで閉塞感が解消されるのではないのでしょうか。ホーム内で検討してはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のポスターはリーフレットを配布・掲示しています。また、年間研修計画の中に高齢者虐待についての研修を取り入れています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修に参加し学ぶ機会をつくっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をおこなっています。重要事項説明書をもって、十分な説明をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をエレベーター前に設置し来所時にご意見を言える環境を作っています。また、運営推進会議で、ご家族様に参加して頂き、様々なご意見を聞かせて頂いています。	家族の来訪時には職員から利用者の様子を報告して意見等を聴取しています。利用者の日常の様子や外出時の風景等、写真を多く掲載した「ゆめ長居公園だより」を発行して、家族に配付しています。ホーム内に意見箱を設けて家族が意見を出しやすいようにしています。家族から出された意見はホーム運営に反映するよう取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を開催し、管理者が出席するようにしています。また、個別面談を年2回開催して、様々な意見を聴く機会を設けています。	管理者は日頃から職員と対話をして意見や提案があれば聴取しています。年に2回個別面談を行い、意見や希望を聞いてホーム運営に活かしています。職員は毎月のフロア会議で意見交換を行い、ホーム運営についての提案をしています。管理者は職員研修にも力を入れ、新しい情報や研修報告等についてはCD等で再現し、全職員が内容を共有できるようにしています。働きやすい職場環境の改善にも取り組んでおり、職員の定着と利用者サービスの向上につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>常勤・非常勤に関係なく、介護技術を評価し法人独自の認定システムの構築をおこなっており、認定者には、手当として給与アップに繋げるよう努力しています。また、8S 運動(整理・整頓・清掃・清潔・安全・節約・躰・しぐさ)をおこない、働きやすい職場環境の改善を常におこなっています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>チューター制度を取り入れ、OJT をベースに人材育成に力を入れています。また、法人研修でも、1年目 2年目 3年目研修、チーフ主任管理者研修、専門職研修や中途採用者研修、認知症研修等に取り組んでいます。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH 委員会や GH 連絡会など定期的に開かれる会議や施設見学会に管理者や職員が参加しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には、情報交換シートを活用し、日常生活様々な様子を職員が把握できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にキーパーソン等に現在の不安や将来の不安を聴き出しています。困りごとや悩み事が出た時点で、職員・管理者・ケアマネに相談して貰うよう声掛けをおこなっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成する前に御家族様からご意見を聴き出し、プランに反映しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、掃除・洗濯等ご利用者様に協力してもらうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出企画にご家族様に参加して頂くなど、施設行事の参加にも協力してもらっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた喫茶店に定期的に通ったり、よく来られた長居公園へ散歩に出かけるように支援しています。	利用者が以前住んでいた家の近所の友人が1階のデイサービスを利用しており、利用日には訪ねてくれます。行き慣れた喫茶店やホーム向かいの大規模公園も馴染みの場所で、職員は馴染みの関係を大切にしています。ホーム入居後に近くの居酒屋に行くようになり、新たな馴染みの関係が生まれています。同じ趣味の利用者同士との外出企画や、気の合った利用者同士を同じテーブルにするなど職員は新たな関係づくりを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味が一緒のご利用者様同士で外出企画をおこなうなど、関係構築の努力をしています。また、職員が間に入ることで、利用者様同士が関わり合う環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティア活動で施設に来て頂く事もあり、関係性を良好に保っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の夢や望みを聴き、御希望にそえるよう努力しています。御自身で訴えがでないご利用者様には、ご家族様から聞き出す様にしています。	職員は利用者一人ひとりの意向を確認し、日常の会話から思いを汲み取り記録に残して支援に活かしています。職員は利用者が自分の思いで行動できるよう見守り、化粧をしたり、着衣を選んだり、散歩をしたり、「ゆめを持って歩こう」等に取り組むなど、意向に沿った支援をしています。利用者が言葉で表せない場合には表情やしぐさ等で確認し、困難な場合には家族の協力を得て利用者本位の対応をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御本人・ご家族様に趣味嗜好をモニタリングして、現場に反映するようにしています。生活環境の変化も考えられるため、入居1ヵ月間は重点的に様子を観察し、フロア会議で検討するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中に活動内容を記載。毎月のフロア会議で御様子の変化やADL・IADLの状況を話し合うようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、フロア会議に出席し、ご家族様や職員の意見、ご利用者様に関わる関係者から意見を聴き、最後に管理者に閲覧し計画書の作成をおこなっています。	家族の希望や意見は面談、電話、手紙、Eメール等で確認し、利用者担当職員と調整して介護計画書を作成しています。作成した介護計画書案はサービス担当者会議で検討しています。介護計画書は利用者家族に説明し了承サインをもらっています。家族が遠隔地の場合には電話等で説明した後、郵送し了承を得ています。介護計画書は詳細な実施記録を活かして月に1回モニタリングを行い、6カ月毎に見直しをしています。状態が急変した場合にはその都度見直しをして状況に沿った対応をしています。	ホームでは「その人らしい暮らしの支援」について、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしたい支援に取り組んでいますが、今後もさらに利用者の状況に沿った支援ができるよう、利用者が役割や目標を持って充実した日常生活を送れるよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフト「絆」を活用し、日々のケアやご利用者様の御様子を記録しています。職員間の申し送りには別途、連絡ノートを作成し、重要ポイントを記入するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	施設内でニーズが満たせない場合は、外部サービスを活用しています。柔軟にサービスを提供できるように努めています。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域の方に外出ボランティアの協力を得ています。地域から音楽ボランティアに来て頂く事も御座います。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	事業所の委託医を基本に、地域の医院に都度、受診するようにしています。また、ご家族様・本人様希望の病院に定期的に受診しています。	利用者家族の希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。医療機関受診時には家族と連携して職員が同伴し、受診支援をしています。ホームでは看護師、提携医療機関と連携し、24時間、365日、必要な医療が受けられるよう支援しています。	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週2回の訪問看護師による健康チェックをおこなっています。また、併設のデイサービスの看護師と緊急時は連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当医の先生の説明をご家族様と一緒に参加し、安心して貰うよう努めています。退院時には、管理者と連携をとって、早期に対応できる体制をとっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方針の説明をおこなっています。状態が悪化した時点で、ご家族様に今後の方向性を相談し、ご家族様の御希望に添えるよう努めています。	入居契約面談時に重度化した場合の対応について説明し「重度化した場合における指針の同意書」をもらっています。基本的には看取り支援は行わない方針で、あらかじめ特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明し同意を得ています。重度化した場合の対応としてはその都度、利用者の状況を確認し、家族や医師と相談して利用者に最も適した療養の場を確保できるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を施設内で実施しています。また、急変時や事故発生時は、管理者に連絡する体制を取っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。緊急避難先を地図で事務所に掲示する対策を講じています。	防災マニュアルを作成し、消防署と連携して年2回の災害時避難訓練を実施しています。避難訓練については記録を作成し、利用者、職員、協力者等の様子を写真に残しています。非常災害時の備蓄については備蓄リストを作成し、ホーム内に保管していますが、現在は備蓄品の更新中で一部に補充していない食料品等があり、順次補充する予定です。	備蓄食糧品の交換については消費期限日までに行うことが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に、マナー研修を実施。第三者から聴いて、気持ちよい言葉遣いが出来るよう、徹底しています。	職員入職時には法人のプライバシー行動指針「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、さらに継続した研修を取り入れて利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を徹底しています。職員は利用者一人ひとりを尊重し、言葉かけも丁寧に、プライバシーに配慮した対応をしています。個人情報に記載した書類やデータ等は厳重に保管し、情報管理を徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	市民オンブズマン機構を活用し、職員に話づらいことも間接的に聴く工夫をしています。ゆっくりと時間をかけてご利用者様とコミュニケーションをとり、ご利用者様が落ち着くことができる環境になるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間を設ける事無く、ご利用者様に合わせて一日をスタートしています。ご利用者様とコミュニケーションを図り、1人1人に合った、ペースで過ごして貰うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今年からメイクをサービスとして導入。「いつまでも美しく」をモットーに、希望に添って身だしなみ等職員が支援しています。外部講師の先生からも、レクチャーを受け男性職員もメイクが出来る体制を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日々の食事の提供の他、デイサービスの調理師がご利用者の希望に添った、食事の提供や外食企画など様々な取り組みの実践をしています。</p>	<p>朝食は、利用者と共に食材の買物に出かけホームで作っています。昼食と夕食はご飯をホームで炊き、おかずはクックチルドを利用しています。職員は一緒にテーブルで利用者を見守りながら食事をしています。嚥下困難な方には、刻み食等を作り、ゆっくりと利用者のペースで食事ができるように介助しています。利用者の誕生日には、担当職員と外出をして、好きな食べ物を選ぶことができます。近くの居酒屋で好きな物を飲んで食べて、楽しむ利用者もおられます。毎週木曜日には法人より派遣された料理人が利用者の希望に沿った本格料理を提供しています。おやつや季節料理等は、ホーム内で利用者と共に作り、利用者は得意なことで力を発揮して楽しんでいます。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が献立した、給食会社に日々の、お食事を提供。摂取量や水分量を記録に残し、最低限の水分摂取の把握に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を実施。義歯の方は夜間、消毒の支援をおこなっています。週1回の訪問歯科による口腔内の洗浄・指導をおこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方にのみ、おむつ・パッドの使用をおこなっています。不必要な方には、ご家族様に相談し、布パンツの購入を促しています。	プライバシーに配慮しながら声かけをするなど、利用者の排泄パターンに合わせた支援をしています。排泄の失敗があっても、なるべくオムツを使用せず、排泄リズムに配慮した自立支援を心がけています。また、自然な排便ができるよう利用者一人ひとりに合わせて水分の提供、食事内容を工夫するなどの支援をしています。夜間には安全に配慮してポータブルトイレを活用するなど、利用者の状況に合わせた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動の中に、歩行運動も取り入れ、腸の活性を促しています。水分摂取量にも注意しています。朝食にヨーグルトを摂取して貰うなど、食事面でも工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝から夕方まで幅広い時間帯で入浴して貰うようにしています。週3日の入浴を基本に、年齢や体調に合わせて都度変更しています。	ホームでは週3回の入浴支援をしていますが、利用者の体調等に合わせて回数を調整しています。職員は朝から夕方の時間帯に、いつでも入浴できるよう準備しています。入浴を好まない利用者には、言葉かけの方法を工夫し、時間帯を変えるなど、利用者の気持ちに沿った支援をしています。入浴後の穏やかな利用者の顔を見て、職員は達成感を感じています。入浴剤や季節湯の工夫をすること、好みのシャンプーを持参すること等で入浴を楽しんでいます。今後は浴室に絵シートなどを張ることで景観を楽しむ支援をする予定です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方には、ホットミルクなどを飲んでもらったり、眠るまで傍につき添ったり、個別に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋をケース記録ファイルに保管。薬担当者を付け、処方ミスとう無いが、徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が好きな方は、職員がフォローし楽しんでもらっています。お酒が好きな方は、地域の居酒屋に外食する事もあります。お散歩が好きな方は、長居公園や買い物に同行してもらって、散歩の機会が増えるよう努力しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて外出時間、場所を変更し、外出機会を増やせるよう努力しています。また、ボランティアの協力や、実習生の協力で、外出頻度は増えるよう支援しています。	晴れの日には公園の散歩に日常的に出かけています。ユニット玄関には帽子掛けや下駄箱があり、いつでも出かけられるように支援しています。法人全体で「夢を持って歩こう」を企画し、伊勢神宮までの距離を歩くと、個人の夢を叶えることができます。最近では日帰り温泉旅行に行きたい利用者やてんぷらを思い切り食べたい利用者の夢が叶っています。ほとんどの利用者が万歩計をつけて外出、散歩、買い物、ホーム内の移動等に取り組んでいます。一人ひとりの専用手帳に記録が残されており、目標達成に向けて利用者の励みになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、お金を持参して頂いていますが、基本は施設立替にて、好きな物を購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っておられる方もいます。お手紙を書きたい時は、職員が支援しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長居公園が見渡せるよう、ガラスの部分を広くとっています。リビングのテーブルやソファを居心地良く過ごして貰うよう、配置変更したり工夫をしています。ピアノを置いて、職員やボランティアがいつでも演奏できるよう、考慮しています。	大規模公園が眺望できるリビングでは公園の花や木々から季節の移り変わりを感ずることができ、近くの道路を走る車や人々の動きも見ることができます。バルコニーのプランターには花が植えられ、利用者は居室から出て職員と洗濯物を干したりしています。こたつコーナーやソファ近くにはテレビや新聞を、廊下や玄関等にもソファやイスを置いて利用者が好きな場所で過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でお話しができるよう、席順の検討をしています。一人でも安心して過ごして頂けるように、ソファを設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、キーパーソンの方に、使い慣れた家具があれば、持ってきて頂くように声掛けをしています。絵画が好きな方は、居室に飾られています。	居室扉には表札を掲示して、利用者に分かりやすくしています。エアコン、クローゼット、洗面台は全室備えつけで、トイレ付の居室もあります。ベッドは利用者に合わせたベッドをレンタルや購入で個別に設置しています。利用者は机や椅子、整理ダンス、テレビ等を持参し、写真やぬいぐるみ、絵画等、お気に入りのものを飾って、その人らしく工夫しています。職員は利用者と共に居室を清掃し、空調にも配慮して、安全に心地よく過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など、分かりやすく掲示するなどの工夫をしています。また、車椅子自走の方でも、不便なく移動できるよう、共有スペースを広くとる配慮をしています。		